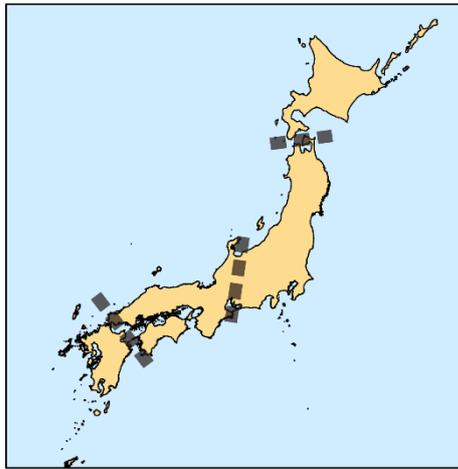


## メドハギ (*Lespedeza cuneata* (Dum.Cours.) G.Don var. *cuneata*)

### 自然分布域

北海道～琉球, 朝鮮半島・中国・ヒマラヤ・アフガニスタン・マレーシア (大橋 2016)

### 地域性種苗とみなす地理的範囲



※本図は文献に基づき、主要4島（北海道，本州，四国，九州）における当該植物の遺伝的変異の地理的分布の傾向を示している。破線で表示されている場合，境界線の位置や幅は厳密に確定しているものではない。研究の進展に伴って境界線が更新される可能性があるため，学会ウェブサイトで最新情報を確認する必要がある。

### 解 説

Imanishi *et al.* (2023)は，日本全国 of 自然生育地や緑化法面に生育するメドハギ類，及び，日本産の種子，アメリカあるいは中国から輸入した種子から育成したメドハギ類を対象に遺伝解析を行った。370 個体のメドハギ類（45 集団，167 個体の自然生育地のメドハギを含む）のトータル DNA（主に核 DNA）からは，MIG-seq 法によって 773 の一塩基多型（SNPs）のデータが取得された。また，354 個体のメドハギ類（45 集団，161 個体の自然生育地のメドハギを含む）の葉緑体 DNA からは，2 領域で 16 ハプロタイプ（自然生育地のメドハギのみでは 10 ハプロタイプ）が特定された。これらのデータの解析の結果，日本の自然生育地のメドハギの地理的遺伝構造には南西から北東方向の遺伝的クライン（連続的変異）が見られ，日本の主要 4 島（北海道，本州，四国，九州）は北海道，東日本，西日本，九州の 4 地区に遺伝的に分化していることが明らかとなった。ただし，北海道は 1 集団の自然生育地のみを解析対象としているため，この地区の遺伝的分化の程度については今後さらに検討する必要があるとされている。

参考文献

大橋広好 (2016) マメ科. 大橋広好ほか編. 改訂新版日本の野生植物 第2巻. 平凡社. p. 280.

Imanishi, J., Imanishi, A., Suyama, Y., Isagi, Y. (2023) Geographical genetic structure of *Lespedeza cuneata* var. *cuneata* in Japan: necessity of genetic considerations in slope revegetation. *Landscape and Ecological Engineering* 1-14.

<https://rdcu.be/ddtBB> から閲覧可

情報更新日・作成者

2023年6月5日, 日本緑化工学会緑化植物委員会